明治之花　石版画百景　半原版画館コレクションから

会　　期：2026 年 1 月 10 日（土）～3 月 22 日（日）〈62 日間〉
会　　場：企画展示室、美術工芸展示室
展示点数：315 点
観 覧 料：無料
入場者数：2,367 人

【内容】

美濃加茂市民ミュージアムでは開館以来、地域ゆかりの作家を中心とする日本近現代の版画を収蔵しています。当館では令和 5 年度、明治時代の砂目石版画を中心とする 3500 点を超える日本近現代版画の寄贈を受けました。この作品群は 1984 年、瑞浪市に半原版画館を設立した館長の糸魚川淳二氏（1929–2021 年）が生涯をかけて集めたものです。

江戸時代に日本に流入した石版画は、近代化を目指す明治期に新しい印刷技術として発達しました。1 枚の絵として眺める「額絵」が作られ、発行は明治 20 年代に最盛期を迎えます。文明開化を反映する都会の人や風景、各地の名所、貴顕の肖像、時事問題など多様な題材に富む刷り物は、手頃な値段で庶民が手に取ることのできる絵画でした。流行や美意識、社会的な通念や規範、理想とする人間像が映し出された絵を読み解く時、明治の時代を生きた人々の暮らしや思考の歴史を知る資料とも捉えられるものです。

現代の私達の眼から見ると、モチーフの組み合わせや描き方はどこか奇妙で荒唐無稽です。絵画のような写真のような、リアルなようで浮世離れした空気感を併せ持つ石版画は当時の美意識をまざまざと映し出し、時代を超えて観る者の好奇心をくすぐります。

明治時代に花開いた石版画の世界は、見れば見るほど驚きと発見を観る者に与えてくれます。描かれた理由に思いを巡らせながら、当時を生きた人々のまなざしを追体験できるような展示を目指しました。

【関連事業】

□ミュージアムフォーラム「明治のタイムカプセル－糸魚川コレクションから見る明治の文化と社会－」
3 月 1 日（日）　14:00～15:30　　参加者：48 人
講　師：増野恵子氏（早稲田大学・跡見学園女子大学非常勤講師）　会　場：緑のホール

□ミュージアムトーク
1 月 10 日（土）　①10:30～11:30　参加者：12 人　②13:30～14:30　参加者：8 人
2 月 8 日（日）　①10:30～11:30　参加者：8 人　②13:30～14:30　参加者：8 人
講　師：当館学芸員　　会　場：企画展示室・美術工芸展示室

□体験！キッチンリトグラフ
1 月 25 日（日）　10:00～12:00　13:00～15:30　参加者：4 人
2 月 21 日（土）　10:00～12:00　13:00～15:30　参加者：9 人
講　師：当館学芸員　アートボランティア　　会　場：工芸室